～松蔭の制服～

住本喜代子さん
高校 17回生

私が本校に在籍しておりましたのは、今から50年以上も前のことで有りました。当時の松蔭校は、女の子達に取りましてあこがれの学校、あこがれの制服でした。

私が学校の校門を初めて母とくぐりましたのは小学校６年生の時でした。その日は、中学校受験の日で有りました。大勢の女の子達が母親に連れられ校庭に来ていました。そして、教室で始められました筆記試験、どうにか全問答えを書く事が出来ました。

後日、合格発表の日に再度母と学校へ出掛けました。校庭で受験生達は、合格番号が発表されるのを待ちました。そして、張り出された合格番号、青空の下歓声が沸き上がりました。「あった！９１番」数有る番号の中で私の受験番号９１の数字は、輝いて見えました。松蔭、松蔭という美しい漢字、その言葉の響きが私にもたらされた瞬間で有りました。

そして、始まりました学校生活、体育館での朝の礼拝、牧師様が祈りと共に聖書の中の一節から良いお話しをして下さいました。最後に美しい聖歌を皆で歌いその日の礼拝は、幕を閉じました。中高と６年間のその中に身を置きますと、いつの間にか心の中が浄化されていくのを感じました。

教育熱心な母は、松蔭女子学院と言う名門校に私を通わせてくれました。学校を卒業致しまして社会に出ました時、「松蔭卒業」の4文字、この4文字がどれ程私を明るく導いてくれたでしょうか。母が私に贈ってくれました一つの大きな贈り物。それはこの4文字だったような気が致します。

時の流れは余りにも早く過ぎ去り今から10年ほど前、本校は創立120周年を迎えました。

それを記念致しまして神戸三宮のさんちかホールで本校の歴史写真展が開催されました。

そのパネル写真を目で追いながら今は亡き母の事が思い出されました。「お母さん、有難うございました」と、心の中で手を合わせました。

その写真展の時からまたたく間に10年もの歳月が過ぎ去りました。本校は、この度創立130周年を迎える事になりました。

あの日、あの時、あの制服を着て学校に通っていました時、それは私の人生の中で輝かしい日々で有りました。

母校、松蔭女子学院が未来永劫存続されます様に心からお祈り申し上げます。